

みなさん、こんにちは。今回は西南学院大学外国語学部のフランス語教育を中心にをご紹介します。

西南学院は保育所、幼稚園、小学校、中学校・高等学校、大学、大学院を擁した総合学園で、1916(大正5)年、米国南部バプテスト派の宣教師C. K. ドージャーによって創立されました。学院の多くの施設は福岡市の西新という文教地区に位置します。中心街から地下鉄で10分程度、福岡空港からも30分程度で到着でき、とても恵まれた立地にあります。百道浜<sup>ちほま</sup>というビーチ、福岡タワー、PayPayドームも徒歩圏内です。

西南学院大学は7学部12学科の学びを展開しています。2020年に外国語学部は文学部から現在の形になりました。外国語学部では日本語に加え、英語およびフランス語をつかって、「言語科学」、「文学・文化研究」、「コミュニケーション学」の3つの学問領域で広く深い学びを行います。外国語学部は33名ほどの専任教員を擁しますが、フランス語を専門とする教員としては、ネイティヴ3名、日本人教員4名の計7名がおります。

西南学院大学外国語学部が多くの他大学の外国語学部と異なるのは、入学した時点では専攻言語を決定しなくて良いという点です。1年次はフランス語と英語が必修となっており、自分の専攻言語を時間をかけて選択することができます。「フランス語」だけ、「英語」だけではなく、「両方」の言語を専門的に学び続けることも可能です。嬉しいことに、入学前はフランス語に全く興味がなかった学生が、この1年間の学びを通してフランス語に目覚めるといふ例も多く見られます。実際に二言語を並行して学ぶ学生はかなり多いです。フランス語と英語の能力が相乗効果で高まり、2年次でB1レベルに到達する学生もいます。また外国語学部の特徴として、必修科目が少ないという点が挙げられます。そのため、学生は自身の興味関心に応じて自ら学びを組み立てることが可能です。「フランス語」を軸に言語学、文学、社会学、グローバルイシューを学ぶこともできますし、「文学・文化研究」を軸としてフランス文学とイギリス文学を横断的に学ぶことも可能です。入学後まだ自分の関心が定まらない学生も、言語と学問領域を広く選択していくことで、本当に興味の持てる学びの対象を徐々に狭めていくこともできます。3年次にはゼミが必修になっており、そこで専門が決まりますので、「4年間何を勉強してきたのか分からない」ということはありません。例えば私のゼミでは「言語科学」の中の「コーパス言語学」や「データサイエンス」を軸にしています。1年間を通して、プログラミング言語であるPythonを使ってテキスト分析を行い、最後にリサーチ論文を完成させます。今年度フランス語を使って研究する学生の中には、DELFB1とB2のリスニング問題に見られる特徴語を分析したり、Air Franceの

年間報告書からポストコロナの経営戦略を調査したり、OECDの年間報告書をコロナ前後で比較している学生がいます。全国的に見ても、フランス語でデータサイエンスの勉強ができる大学はまだ少ないのではないのでしょうか。



博多の中心街からアクセスのよい西新キャンパスの博物館・図書館

カリキュラム面だけではなく、留学制度も充実しています。西南

学院大学では2024年10月時点で35か国118大学と国際交流協定を結んでいます。フランス語圏だけでも、フランス、ベルギー、カナダにある11大学を留学先として選び、長期留学することができます。全学的な海外派遣留学プログラム以外にも、外国語学部の学生には独自留学プログラムが複数用意されています。例えば、1年後期からフランシュ・コンテ大学の付属語学学校で4か月の語学プログラムを受講し、単位換算することができるプログラムや、春休みの2週間フランスに滞在し、自身の興味のあるテーマについてフランス語で実地調査を行い、調査結果を発表するプログラムなどがあります。さらに、これらの留学プログラムに参加した学生が主体となって、学部での学びや留学経験を社会に還元することを目的とした社会貢献プロジェクトが昨年度より始動しました。今年度は、ボルドー市と姉妹都市協定を締結している「福岡市」、地元企業である「千鳥饅頭総本舗」、ボルドーにあるパティスリー「Pâtisserie S」と学生が直接交渉を行い、協力を取り付けました。その結果、10月12日・13日にボルドー市で開催されたAnimasiaという文化イベントに本学部の学生がブースを出展し、福岡市の認知度向上とボルドー市と福岡市の交流促進を目的とした活動を実現することができました。

最後に、学部の垣根を超えた取り組みを少し紹介します。西南学院大学の言語教育センターでは、「フランス語暗唱・スピーチコンクール」を毎年開催しています。出場を機に、学外のコンクールや留学を検討する学生も多く、フランス語学習のモチベーションを高める絶好の機会となっています。また、大学院生が学部生に検定対策講座を行う「フランス語ラボ」や、同じく大学院生が中心となって企画を行い留学生と学部生との交流の場を提供する「フランス語カフェ」を毎学期行っています。このような正課外の活動も、フランス語を学ぶ楽しみを見つける重要な場となっています。何より、大学院生と学部生の縦のつながりができることで、良い化学反応が生まれています。学部生は大学院生からフランス語学習への刺激を受けることができ、大学院生もフランス語教育の実践を積むことで、フランス語教育について深く考える機会になっています。

西南学院大学では大きく成長することができる環境が整っています。ぜひ西南学院大学で一緒に学びませんか。興味のある方は、HPやインスタグラムをチェックしてみてください(公式サイト：[https://www.seinan-gu.ac.jp/info\\_fls/](https://www.seinan-gu.ac.jp/info_fls/))。 (すぎやま・かおり)